

神奈川新聞

THE KANAGAWA

1
A版
明治34年2月18日第3種郵便物認可 [日刊]



障害者バンドの曲 23
書道シンガーカバー
平塚市内の障害者施設を利用する知的障害者らによる音楽バンドの曲を、書道パフオーマックスライヴを手掛けるシンガーがカバー。「心の唄」を届ける。

23 社会 2019年(平成31年) 4月6日 土曜日 神奈川新聞

世生奏でる「心の唄」

平塚市内の障害者施設を利用する知的障害者らによる音楽バンドのオリジナル曲「心の唄」。全国の福祉施設で書道パフオーマックスを取り入れたライブを続ける書道シンガーの友近890(やつくん)さんがカバーし、5月に発売するCDに収録されることになった。「みんなに支えられて生きている」。障害者の思いが込められた一曲を4日、平塚市内の施設を訪れた友近さんがバンドの障害者とともに熱唱した。

「小さな一歩で生きてきたいと模索している時期だった」と友近さん。送られてきた曲の中で「心の唄」に引かれた。

人「進和学園」(同市万田)が運営する知的障害者施設の利用者と職員とで結成された「どきどきライブ」のオリジナル曲の一つ。2016年、メンバーでもある進和学園副理事長の出纏守英さん(55)が作詞作曲した。ポ

自分の思いを、心の唄を誰かに伝えたい。歌詞に込められた思いに友近さんは「初い、動画サイトでも公開している。きつかけは全国の福祉施設を行脚する友近さんが17年に進和学園で聞いたライブ。観

で悩み「命を捨てることも考えた」。そんな時にテレビから流れた馬場俊英さんの「スターライブ」に心を打たれた。「誰だっってもう一度スターライブの活動を紹介した。29歳で退職し音楽の道に進んだ。実家が書道教室だった

「自分の作詞ではなく、障害者と一緒に歌ってその人たちの思いを全国に歌って広げたい」

「書道シンガー」がカバー



ことから歌いながら描き出す動きをするようになった。この独自のパフオーマックスを考案。東日本大震災を機に全国467カ所目。これまで7万人の福祉施設を巡ってライブ活動に音楽を届けた。

集まり支えてもらいながら生きた。そんな「小さな一歩」を伝えたい」と話す。1989(平成元)年に産

声を上げたライブは今年で31周年。地元イベントでも曲を流すようになった。創設メンバーの五十嵐さんは「新しい元音にもなる音楽を通してともに生きる社会になっほしい」と希望を抱く。

藤井さんは「ライブをする施設では耳が聞こえない人も、体が十分動かせない人も、心の唄が勇気を与えてくれる」に願ひ、友近さんにも「誰かの思いを伝えるというカーになりたい。心の唄で誰かの背中を押すことができれば」と夢を持つ。それぞれが心に伝えたい思いを持ち、小さな一歩を踏み出している。

「心の唄」を収録した友近さんのCD「翔」(TOMO S、税別2千円)は5月29日発売、全国のCDショップなどで購入できる。問い合わせは公式ホームページ(slove.jp)から。

「心の唄」を熱唱する友近890(やつくん)さん(中央)と「どきどきライブ」メンバー 平塚市高根の

きりりんボーズ」メンバー

平塚障害者バンドの曲広がる輪